

これは米国の有力な病院が公開している PPS の診断方法 (Screening) をまとめたものです。PPS の原因はほぼ明確になり、もはや Syndrome (症候群) は当てはまらないとの意見が有力です。

ポリオ後症候群 (PPS) の診断方法

2005 年 03 月 04 日

ポリオ後症候群であるという診断をする前に、まず医師は次の 3 つの指標をチェックすることになります。

- 以前ポリオと診断されたこと
このためには昔の診察記録が必要になりますし、年配の家族の方から当時の話を詳しく聞く必要も出てくるでしょう。その理由は、急性ポリオは主として子供に生じるからです。ポリオ後症候群は、10 歳以上でポリオに罹り症状が重かった方に特に起こるようです。ただし昔のことですから、診察記録の紛失や当時の病状を知る家族が亡くなっていることなどの問題があります。
- 部分的な回復からかなりの期間が経過していること
急性ポリオに罹ってから一部回復した人達は、その後症状が進むことなく長年月過ごしてきたはずで、ポリオ後症候群が生じるのは人により大きく変わりますが、通常は最初にポリオと診断を受けてから 10 ~ 40 年です。
- 徐々に症状がでてくること
弱ってきていることは普通には感知できないものです。日常の生活をするうえで問題がでて初めて感じられるものです。元気を回復することもあります。午後一番にも直ぐに疲れはててしまったり、今までは何でもなかった仕事に疲れたりするようになります。

上記の 3 項目をチェックし、その上で、ポリオ後症候群の人の症状は他の疾患の症状と似ているところがあるため、医師の方は、関節炎 (ウイルス性関節炎も含む)、線維筋肉痛、慢性疲労症候群、脊柱側弯症のような他の疾患を区別しようと試みるようになります。

ポリオ後症候群になった人のなかには、筋萎縮性側索硬化症 (ALS) になるのではないかと心配される人もいますが、ポリオ後症候群は ALS とは全く異なるものですぐにわかります。

間違いを除くために医師の方が採用する具体的な診断方法には次のようなものがあります。

- 筋電図法 (Electromyography : EMG) と神経伝導検査 (nerve conduction studies : NCS)
筋電図法 (EMG) は筋肉細胞から発生する極めて小さな電圧を測定するものです。具体的には、細い電極針を測定する場所の筋肉にさします。筋肉を伸ばしてリラックスした状態では電圧はゼロです。このリラックスした状態と、筋肉を収縮させた状態での電位差を記録します。EMG と同様な方法に神経伝導検査があります。具体的には、2 つの電極を測定したい神経のあるところの上の皮膚にテープで貼り付けます。神経伝導信号の速さを測定するために微小な電気ショックを神経に加えます。こういう診断方法によって、神経障害 (神経が異常な状態にあること)、筋疾患 (筋肉の組織の疾患) のような症状が診断され、区別されます。
- 画像化による診断 (核磁気共鳴装置 Magnetic Resonance Imaging : MRI、CT 装置 X-ray Computer Tomography : CT)
脳と脊髄 (全身も) を非侵襲で輪切りにし、画像化する MRI または CT 診断を受けることにもなります。この診断方法は、例えば脊椎症、進行性の変性脊椎疾患、脊柱管狭窄症 (脊柱が狭まり神経が圧迫される症状) のような脊椎脊髄疾患患者を区別するために採用されます。
- 血液検査
ポリオ後症候群の人の場合、普通血液は問題ありません。血液検査で異常が見つかった場合には、今現在の症状の原因となるもう 1 つの内在する疾患があるはずで、 (完)